

# L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X について

情報工学科 篠埜 功

2014年4月28日

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X は特に数式の記述に適している文書整形ソフトウェアで、芝浦工大のパソコンの windows 上に既にインストールされている。スタートメニューから辿って行くと、文書作成の中に、winshell という、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を使うための支援環境ソフトウェアがある。これは私は使ったことがないので、コマンドプロンプトからコマンドで起動する方法を紹介する。

コマンドプロンプトから使う場合は、`platex` というコマンド名で引数に `tex` ファイルを与えて起動する。`tex` ファイルはテキストファイルであり、拡張子は `.tex` とする。ここでは、`sample.tex` という `tex` ファイルが既に作成してあるとする。(サンプルの `tex` ファイル `sample.tex` を講義用 web page 上に置いてある。) まず、コマンドプロンプトを開いて、`sample.tex` が置いてあるディレクトリに移動する。その後、

```
> platex sample
```

のように打ち込むことによって、`sample.dvi` というファイルが生成される(注意: > はプロンプト)。この時点でエラーになったらファイルを修正してもう一度やりなおす。その後、

```
> dvi2pdf sample
```

のように打ち込むことによって、`sample.pdf` という pdf ファイルが生成される。

`tex` ファイルの中身の書き方については、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の本 ([1] など) を見るか、あるいは

- <http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura/texwiki/>
- <http://www.latex-project.org/>

を見る等して各自で勉強する。

## 参考文献

- [1] 野寺 隆志. 楽々 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X. 共立出版, 1994.